

共に未来を育てるために
進路指導の

現場から

第4回

希望進路実現に向け
生徒に自信を持たせる

——進路指導の方針について教えてくださいませんか。
本校は1学年240人が在籍する普通科の女子校です。例年、4年制大学進学者が約7割、短大進学者が約1割、専門学校進学者が約2割程度です。女子校ということもあり、従来から多くの生徒が

看護・医療系の進路を希望します。今年度も、進学者全体の3割程度が看護・医療系の大学・短大、専門学校に進みました。

本校は穏やかな性格の生徒が多いのですが、言い方を換えれば、遠慮がちで、自分の希望する進路目標の実現に自信がないとも言えます。ですから、生徒には、自分の意思で前向きに進路を選ぶ力を付けてほしいと考えています。こ

高校3年間を通し、自分の意思で
将来を選び取る力を育てています



群馬県立館林女子高校 進路指導主事

松崎 健一

まつざきけんいち ●教職歴28年。専門教科は数学。同校に赴任して4年目。2014年より現職。「大学でも社会に出てからも、常に広い視野に立ち、学び続ける人間を育てたい」という思いを持って、指導にあたっている。

うした力を育むには時間がかかりますし、各学年の教員が異なる観点で指導していたのでは成果が上がりません。そこで、2年前に指導計画を改め、より一貫性のある指導ができるようにしました。生徒の可能性を引き出し、それぞれが活躍できる場所に自信を持って送り出すことが、私たち教員の役目だからです。

大学での学びを知ることが
進路選択の幅を広げる

——具体的にどのようなように変えていったのでしょうか。

改訂にあたっては、「生徒の進路選択の幅を広げること」にポイントを置きました。できるだけ多くの選択肢を検討したうえで進路を決めてほしいからです。

本校は、入学時点で専門学校を志望している生徒も一定数いるのですが、専門学校以外の選択肢も検討できるよう、1年次から大学に触れる機会を増やしました。

1年生の夏から、大学のオープンキャンパスへの参加を全員に促しています。加えて、3年生向けに実施していた大学説明会に2年生も参加できるようにしました。この説明会は、県内の国公私立本校から進学者が多い首都圏私立

の計20大学に来校いただき実施しています。各大学1教室を会場として用意し、生徒は興味のある大学の教室に行つて、学部概要や卒業後の進路などについて話を聞きます。

2年生の秋には、大学教員による模擬授業を校内で実施します。学問分野への関心の幅を広げるために、生徒の関心が高い医療・看護だけでなく、経済や法、理工、芸術など、さまざまな学問分野の大学教員を招いています。

——進路指導の一環として、小論文指導に力を入れているところがありますか。
推薦入試対策として表現力を付けさせる目的もあるのですが、社会への視野を広げる意味でも有効

自らの判断で進路を
決めるようアドバイス

——女子生徒は男子生徒と比べ、教員や保護者によく相談をするイメージがありますか。
その傾向はあります。私自身、男子校で長年教えていましたが、女子生徒のほうが勉強の質問も進路に関する相談も多いですね。

また、男子生徒と比べて保護者の関与も大きいと感じています。本校では3年生の春に進路講演会を行っていますが、平日にもかかわらず6割程度の保護者が参加します。しかし、生徒が自分の力で進路を選び取るのが理想だとの考えから、保護者の意向を踏まえながらも、最終的に自分の判断で進路を決めるようにアドバイスをしています。例えば、保護者の中には「看護師」



る方も多いのですが、今後は4年制大学卒の看護師が増えていくはず。生徒にはそうした現状も踏まえて、進学先を選択するようアドバイスします。

今年度の3年生は4年制大学の志望者が例年よりも増えています。指導計画の改訂から3年目を迎え、早い段階から安易に進路を絞り込んでしまう生徒が減ってきたのではないかと感じています。

——女子のほうがコツコツ勉強し、推薦入試を利用して進学するという話も聞きますか。
そういう面もあるかもしれませんが、本校の場合、大学進学者の4割程度が推薦入試で進学しています。ただ、早い時期に進学先が決まった生徒も、次のステップに向けて最後まで勉強しています。

私は、大学進学後も努力を継続

高校訪問
ワンポイントアドバイス

一般論は知らない
その高校向けの説明を

高校訪問は互いに情報を交換して、理解を深めるよい機会だと考えています。ですから、「本校の生徒にとって有益な情報」を具体的に紹介していただけるとありがたいですね。例えば「この学科は、こういうカリキュラムで学べるので、〇〇の資格取得をめざす女子生徒にとってよいと思います」というように。そういう大学の説明会には、高校教員も足を運ぶと思います。

まとめ

女子生徒の保護者の
進路選択への関与は
男子生徒以上に大きい

大学は、社会への
視野を広げる場を
多く提供してほしい